

九州 兼喜

2024 . 1

No. 149

謹賀新年



謹んで新年の
ご祝詞を申し上げます

令和6年 元旦

年頭のご挨拶

九州兼喜会
会長

篠 森 義 晴



明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えになられました事と、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様方に多大なるご高配を賜り、心より御礼申し上げます。本年も何卒宜しく願い申し上げます。

11月11日は清水建設様の創立記念日であります。昨年は創業220年の節目の年でした。1804年、江戸神田鍛冶町で創業し、明治、大正、昭和、平成、令和と時代の荒波を乗り越え、変化し進化し発展し続け、日本を代表するリーディングカンパニーへと昇華されました。これまでの歩みに携わった全ての方々から敬意を表するとともに、この場をおかりして心からお祝いを申し上げる次第であります。

今後ますます発展を続けられる清水建設様に名義を賜り、これからも共に精進させて頂けることに大きな喜びを抱くと共に、改めて気の引き締まる思いであります。

220年という歩みの中で想像を絶するような苦労が数々あったのだらうと存じます。明治維新や度重なる大戦、戦後の復興など、私達には考えも及ばないほどのご苦労があった事と存じます。

現代においても、労務問題や価格高騰など様々な問題が山積しております。しかし、これまでの220年の歩みに想いを馳せ、先人たちの努力や知恵を学ぶことによって、様々な諸問題も必ず乗り越えることができると確信しております。

歴史や伝統を学び、思いやりや誠実さなど絶対に忘れてはならない事を肝に銘じ、その土台の上で、技術を磨き、新しい情報を取り入れ、生産性を向上させ、未来志向で様々な事にチャレンジして行かなければなりません。「故きを温ねて新しきを知る」このような精神こそが混沌とした現代に必要な事であり、今私達に最も求められている事と存じます。

今年の春にはNOVARE(潮見プロジェクト)が本格的に稼働すると伺っております。旧渋沢邸や清水建設歴史資料館など歴史を学ぶ事ができる施設や、先端

技術や宇宙の事など、未来のことについても学ぶ事ができると伺っております。

正式名称は「温故創新の森 NOVARE」と言うそうです。正に「故きを温ねて新しきを知る」に至適な場所であると存じます。過去に想いを馳せ、今だけ良ければよいという場当たりの思考に陥らず、未来に向かって果敢にチャレンジをする。清水建設様の強いメッセージを感じる次第であります。早く訪れてみたいと、とても楽しみにしております。

昨年末、阿蘇神社を訪れ参拝させて頂きました。8年前に発生した熊本地震により阿蘇神社の社殿は甚大な被害を受け、中でも神社のシンボルである楼門(江戸末期に造営)は全倒壊してしまい、地域の方々ははじめ広く崇敬をあつめる阿蘇神社の被害を目の当たりにし大変な悲しみに包まれました。

日本三大楼門のひとつと言われ、国指定重要文化財でもあるこの楼門の保存修理工事は困難を極める工事でした。約3年かけて倒壊した楼門の部材(約11,000点)を一つ一つ丁寧に回収し、補修し、それから4年以上かけて復原を進めていく。極めて高い技術力と高度な管理能力が必要な工事であります。ご担当された現場責任者の方から、工事の歩みをご説明頂きましたが、想像を絶する内容でした。江戸時代の棟梁の技術力の高さと知恵を知り、そこに現代の職人の匠の技と、清水建設様の最新技術と高度な施工管理を結集させ復原に至る、正に「温故創新」とはこの事であると、立派に力強く復原された楼門をみて感銘を受けた次第であります。建設業の神髄を見たような気が致しました。

安全に関しても同様であると思います。過去の辛い悲しい事例から教訓を得て、安全安心な現場を創り上げていく。起こしてしまった事故は無いものにはできません。もっとも大事なことは「二度と事故を起こさない」と心に誓い、周囲に宣言し、未来志向で前向きに実行し続ける事が肝要であると確信しております。

新年を迎えるにあたり、九州兼喜会一同、温故創新の精神の元、安全文化を復活させ、これからの世の中で求められる専門工事業者となれるよう研鑽し、一致団結して清水建設様の社業の発展に貢献できるよう精進する所存であります。清水建設の皆様におかれましては本年も何卒ご指導ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

今年は辰年であります。皆様の社業も、そして皆様の心身のご健康も、龍の如く天に向かって上昇しますことを心からご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

湯 原 克 佳



新年あけましておめでとうございます。

兼喜会の皆様におかれましては、旧年中は格別のご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。本年も引き続きよろしくお願いいたします。お陰様で、皆様との懇親の場を重ねながら、九州で初めて、新年を迎えることができました。

昨年は5月より新型コロナウイルスの5類移行で社会経済活動が徐々に正常化、インバウンドの復調もあり、九州各地で人流も回復し、賑わいが戻ってきました。そのことは九州各地に足を運んだ際に体感したところです。

一方で、この冬は、新型コロナウイルスに加えてインフルエンザの流行がみられます。引続き、ご自身、ご家族の健康管理に留意していただきたいと思います。

社会環境では、ウクライナ問題の長期化、イスラエル情勢の緊迫化など地政学リスクが高まり、日本社会、建設業への影響も憂慮されます。

こうした地政学リスクに加え、円安の進行が重なり、経済安全保障の観点による生産拠点の国内回帰、インバウンド、防衛力の強化などに伴う日本社会における設備投資動向の中で、九州は改めて、日本における重要な位置づけにあることを学び、気づかされることが多くありました。

このような社会環境の下、建設業は、物価上昇や労務不足に直面しており、そして本年は2024年問題を迎えるという大転換期の年となります。

加えて、当社を含む大手建設会社においては、重大災害、施工不良、工期遅延といった不具合が相次いで発生しており、九州支店も現に直面している重要な課題であります。安全、品質、工程管理は、私たちにとりまして根幹であり、これを疎かにすれば社会的信用の低下を招くことになり、これを非常に懸念しているところです。

当社では、昨年発生した品質トラブルを教訓とし、

二度と繰り返すことの無いよう、毎年11月の第一営業日を「品質の日」と定め、品質の大切さについて全社で考える取り組みを始めました。

現場力、技術力、生産力など、本質的な課題に皆さんと真摯に向き合って対応していく必要があると思います。

昨年は、建設業以外に目を向けますと、某自動車関連会社、某芸能プロダクション会社などのコンプライアンスに関わる社会問題も発生しました。何も言えない環境(心理的安全性)、お客様よりも自分の利益を優先(会社の社会的存在意義)、働きがいよりもノルマ(人的資本)など、会社は赤字ではなくコンプライアンス違反で、社会から望まれなくなることを痛感した学びでもありました。

私が昨年4月に九州支店に着任してから、数多くの式典参列、現場巡回をさせていただきました。幾多の困難を乗り越え福岡の顔になった大名ガーデンシティ、開創400年記念事業の皓台寺の落慶式、熊本震災復興の阿蘇神社の竣工祭、首里城の再建、地域社会が望んでいた滝室坂トンネル貫通式などで、お客様の笑顔や地域社会への貢献を目の当たりにいたしますと、兼喜会の皆様と築き上げてきたことが社会の信頼につながっていることを実感するとともに、改めて皆様のご尽力に感謝し、心強さも感じた昨年でもありました。

また、昨年を通じ「もっとよい建物を安全にみんなで作ろう」という想いに至りました。「もっとよい建物」には、皆さんと協働で品質を確保し、ひとりひとりのやりがい、お客様の笑顔、社会の信頼につながっていくことに、「安全」には「九州安全文化の復活」と「心理的安全性」の両立に、「みんなで作ろう」にはコミュニケーションの促進に想いを込めております。

そうした現場環境をつくるためにも、適正工期・適正価格をお客様にご理解をいただきながら、そして皆様と共に協働スクラム、で取り組んでいきたいと思っておりますので引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、九州兼喜会各社様の益々のご隆盛とご繁栄、併せて令和6年が皆様方にとりまして、素晴らしい一年となり、皆様と笑顔の絶えない一年となりますことを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第31回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

令和5年11月16日から11月17日の日程で清水建設全国連合兼喜会第31回後継者育成が行われ、九州兼喜会青年部から3名が参加しました。

初日は、清水建設株式会社本社2階、シミズホールにて、清水建設様4名の幹部の方々より講話をいただきました。そのあと開会及び主旨説明が全国連合兼喜会青木茂副会長よりありました。初めに全国連合兼喜会中橋博治会長より開会あいさつをいただきました。働き手の確保や、キャリアアップシステムについて、来年4月より開始される労働時間上限等さまざまな課題に対してスピード感を持って取り組むことの大切さをお話いただきました。また、安全についてもお話いただき緊張感をもって日々の災害防止活動に取り組むことの大切さをお話いただきました。また、今回はリアル開催と同時に懇親会も開催となります。清水建設様の幹部の方々のお話を直接聞ける大変貴重な機械でありますので、有意義で実りある研修になりますように、とお言葉を頂戴致しました。

1. 清水建設株式会社 代表取締役副社長

副社長執行役員 土木総本部長

池田 謙太郎 様による講話

①シミズ土木の工事現場

現在の土木の工事現場の件数が合計216件あり、その中でも橋梁が48件あります。梶原トンネル(熊本一大分を結ぶトンネル)、大泉シールド、世界最大の外径となる枚方シールド流水型ダム足羽山ダム、千五沢ダムの改修工事、鉄道協の古城第二橋梁、高速道路の大規模更新国内トップレベルで施工している風力発電(全国で19%の施工)、芦川ウインドファーム(31基を設置)などの国内の工事が挙げられます。また海外の工事現場は12現場あり、土木工事の約15%が海外の

(株) 緒方塗装 緒方 美丈夫
折式田鋼建(株) 折式田 一尊
横内建塗工業(株) 横内 裕太

現場になります。例としてフィリピン発の地下鉄(マニラ地下鉄CP101、アナハン水力発電所(174MW))になります。このように今のシミズの土木の現場を詳しくご紹介いただきました。

②土木部門の挑戦

今回は新卒の方を70名採用された。(2023年は若手が19%、女性が8%)現場施工の省力化、生産性向上、管理の効率化を中心に2024年問題の対応にすることが、非常に重要になってきます。シミズの土木は大手他社と比べて2〜3割りほど少ないとされています。山岳トンネルの例としてロボットの施工を実施しました。熟練技能者不足をカバーし、また、立ち入り禁止を少なくし、安全性を向上させました。ロックボルトの連続打設によりサイクルタイムを20%向上、5名必要とされた人員を2名へ省力化、切羽直下への立ち入りがなくなった為、安全性の向上が格段にあがりました。覆工コンクリート工では、自動施工を取り入れ高品質化、省力化を実現することができました。高性能の機械での管理を実現により高品質化、5名の人員を2名へ省力化することができました。また自動ブルドーザーが完成し、危険作業での適応、技能者不足へのカバー、電動式により環境への配慮、人感センサー等で人が近づくと止まるという機械を開発しました。陸上風力では移動式のタワークレーンを設置、高さ152m、145tのつり上げといった国内では最大、最高性能のクレーンを6月に北海道で運用しました。3眼カメラ配筋検査システムの導入では、鉄筋径、ピッチ、本数、かぶり等の管理ができると同時に即時に検査帳票の作成、検査結果の確保できるようになり東根川橋で国内で初めて採用し、65%の省力化、70%の検査時間の削減を実現しました。360度画像管理システム(open space)では見えない過去もわかる機械ということでコンクリートの打設後の配筋、ボードを張った後の裏側など見えない

箇所での品質管理、見える化をこの機械で実現することができました。

③兼喜会(協力会社)の皆様へのお願い

新しい技術で生産性の向上、よりよい働き方の実現、最新技術を使いこなす、職長さん、職人さんのアイデア、兼喜会と清水建設が車の両輪となってともに挑戦していきたいと思えます。

2. 清水建設株式会社

副社長執行役員 建築総本部長

堤 義人 様による講話

後継者育成研修に参加の皆様へ

直面している課題として、業績の低迷、2024年問題、品質低下、繁忙(仕事量と人員のアンバランス)が挙げられます。2011年の東日本大震災までは低迷していましたが、2013年東京五輪からは60兆円の水準を維持しており、2022年では更に更新しています。労働者は、2002年500万人ほどでしたが、2022年には300万人と技能労働者は慢性的に不足しているのがわかります。九州と北海道に関しましては、建築の需要の増加、工事の大型化といった設備投資に勢いがあります。グローバル・サプライチェーン破断による設備投資回帰、データセンター、物流倉庫の新しい需要といったものによって首都圏は工事量が増加しています。100億円超の完工高は、高水準が継続しており受注のコントロールによって消化の平準化をすることが大切です。消費量を能力内で収めることによって受注量をコントロールします。受注規模の最適化を目指すには、技術を磨くこと、ブランド力を強化すること、目指す姿を構築し、2024年問題、4週8休によって週40時間の稼働を目標に適正工期確保宣言を目指していきます。単価を増加するには、元請の労務単価を発注者側へ要求したり、現場での非生産性時間の低減、快適な労働環境の提供が必要不可欠になっていきます。資材に関しましては、2021年に比べると27%の増加、賃金に関しましては10%の増加となっています。このようなことに対して筋の通った情報の説明、客観的な根拠を示し発注者側の納得を得ることが今後は重要になってきます。品質の問題を例とすると、高級タワーマンションのトラブルなどがあります。施工誤差の暗黙許容や規格に対する知識の希薄が挙げられ、作業員への教育指導、認定内容、規格等の

理解、認識、施工要領の理解が重要です。日本一高いビルのトーチタワーB棟(390m)温故創新の森(ものづくりを体感する施設)などが完成しました。今後も車の両輪として共に挑戦していきます。

3. 清水建設株式会社 建築総本部 購買本部長 山岡 正徳 様による講話

建築延べ床面積は、1億3000㎡、建築投資額は71.5兆円として+60%の増加(GDPの増加で投資額も増加しています。)、建築単価の推移として50%近くの上昇になります。2035年までには、投資額は微増で物価も上昇することが予想されます。それに対して年間10万人が離職していくことが予想されています。技能者は減っているが、延床面積が減っていない。延床面積は変化なしが、投資額は増加している。また建築単価は増加している。ということが分析の結果でおります。また生産年齢人口は15歳~64歳を増しておりますが、2020年74.3%、2025年71.7%、2030年68.8%、2035年64.4%と0.82%減少していくことが予想されています。確実な施工の為に、必要人員の確保(新規入職者の確保)、工業化工法、ロボット等の採用による現場作業の削減、十分な工期の確保、仕事量の平準化(繁閑の波を小さくする。)ことが重要になります。専門工事業者としての課題としては、新卒採用の促進、退職自衛官の採用促進(20代が多い)、異業種からの転職者、非正規雇用者等の採用促進、外国人労働者と特定技能外国人の受け入れ(ベトナム54.3%、インドネシア31.1%、フィリピン9%)任期自衛官(20代~30代)は陸上自衛隊が1700名、海上自衛隊が400名、航空自衛隊が900名となっており3000名のうち375名が建設業へ入職しています(12.5%)。また、退職自衛隊(50代半ば)は、陸上自衛隊が2400名、海上自衛隊が800名、



航空自衛隊が800名となっており4000名のうち404名が建設業へ入職しています(10.1%)。賃金と休日について、全産業の平均給与は458万円、建設業平均給与は、529万円となっています。賃金は他産業に比べて15%多く、休日は2割ほど少ないデータがでています。建設業が、給与が安い、労働時間が長い、危険である、酷暑、酷寒となっており日本人だけでなく外国人労働者からも敬遠されています。

4. 清水建設株式会社 安全環境本部長

塚田 泰三 様による講話

建設業は、墜落、転落の災害は減少してきているが、飛来・落下災害は増加しています。また高齢作業員については若干の減少となっております。

安全については、

- 工事車両などは、誘導員がいないときは車両を後退させない。(単独作業の禁止)
- 事業主は、作業員・作業員の家族を守るもので絶対に加害者にならないようにしてください。
- お金をかける時はお金をかけ良い物は積極的に導入してください。
- 些細な体調の変化に気づき速やかに報告して重症化を防止してください。
- 自然災害など想定外ではすまされない為、知識・天気予報の確認、避難経路の確保など想定外を

想定内に変えてください。

- 恐怖がなくなると安全帯の付け忘れが多発します、当たり前のことを当たり前に行ってください。このぐらいで良いだろうは絶対にやめてください。

災害防止に向けての今後の取り組みとして、建設業労働者不足への対応、超大型現場での安全管理についてが非常に課題になっていきております。体力測定マニュアルを展開して自分の体力がどのような状態なのかをしっかりと把握することが安全にも繋がると思います。経営絵リスクを念頭に置いた危機管理の徹底と人を大切にする安全文化を共に構築していきます。

2日目には、渋沢資料館 顧問 井上潤様にお越しいただき 論語と算盤に学ぶ 渋沢栄一の事業・経営理念をご紹介いただきました。91年の生涯から読み取れるもの、官の立場で文明開化の基盤整備、民間でインフラ整備を目指すこと(経済・産業面から)、渋沢栄一と清水、今注目される渋沢栄一、渋沢の論語算盤説、道徳経済合一説、論語算盤説・道徳経済合一説から見える渋沢栄一の経営哲学、事業経営に必須な条件をご紹介いただきました。周囲の事情に適応することや絶大なる忍耐力で誠心誠意をもつての克服により信用を獲得しました。近代国家を形成し、自分の利益よりも国益を優先した方でした。日本の発展、国際社会への貢献をされました。



秋の研修会 清水匠技塾

コロナ禍も終わり前回の新豊洲市場、有明体操競技場の見学から4年ぶりに開催された青年部研修会は清水建設と兼喜会が共同で運営している清水匠技塾の見学に行きました。

品川駅から貸し切りバスに乗り45分千葉県船橋市にある清水匠技塾は作業訓練棟と教室棟の2棟で構成された施設でした。

はじめに教室棟で全国連合兼喜会の中橋会長お忙しい中わざわざ足を運んでくださり、兼喜会として今後どのような立場と研鑽を積んでいくのか、また今後の建設業全体がどう進むのかをお話していただき、匠技塾の重要性を教えてくださいました。

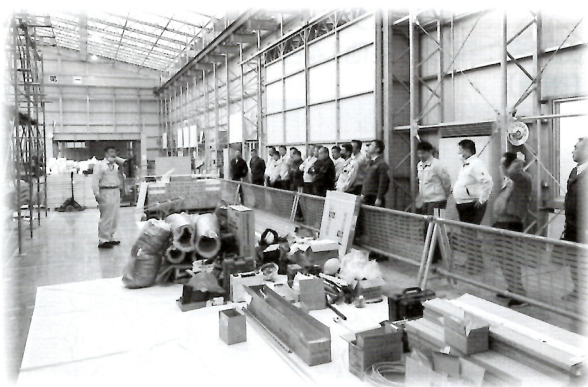
次に清水建設の松崎グループ長様が匠技塾の運営内容の説明をして頂きました。

匠技塾は新規入職時研修をはじめ、スキル養成訓練、多能工養成訓練、生産性向上ツールの開発、操作訓練を学ぶ施設であり毎年色々な兼喜会支部がここを利用しているとの事でした。その中でやはり青年部のメンバーがほとんどと言っている位の悩みの一つである若手の新規入職者不足を補う為に生産性を向上させ、休みを多く取れて給与が多く取れる為に

天候等に左右されず無駄な時間を無くす多能工の有用性、作業効率を上げるツールの話は皆さん真剣に聞いて学んでいました。

その後作業訓練棟に移動して訓練生の訓練の成果、講師の方のアドバイスなどを見聞きして生産性向上ツールのブースでは実際に乗り込み操作などを行いました、皆さんが自分の職種にどう生かせそうかなどを話して松崎グループ長様にも多くのことを質問していました。

短い時間でしたが丁寧かつ熱のこもった説明で多くのことを学ぶことができた有意義な研修会になりました。



兼喜会議事録

○理事会

令和5年8月4日(金)16:00～

場 所：兼喜会事務所
出席者：調達部より 谷口部長 様
篠森会長他10名

【議題】

1. 令和5年中間報告の件
2. 西日本地区交流会の件
3. 全九州役員会(9月開催)の件
4. 青年部
5. 全国連合兼喜会研究会報告
6. その他

○理事会

令和5年10月4日(水)12:00～

場 所：兼喜会事務所
出席者：調達部より 谷口部長 様
篠森会長他8名

【議題】

1. 全国連合兼喜会第3回支部長
会議の件
2. 青年部
3. その他

○理事会

令和5年11月8日(水)12:00～

場 所：兼喜会事務所
出席者：調達部より 谷口部長 様
篠森会長他7名

【議題】

1. 全国連合兼喜会第3回支部長
会議報告の件
2. 全九州役員会(12月開催)の件
3. その他

○役員会

令和5年9月8日(金)16:00～

場 所：ホテル日航大分
オアシスタワー
出席者：篠森会長他14名

【議題】

1. 令和5年中間報告の件
2. 西日本地区交流会の件
3. 全九州役員会(12月開催)の件
4. 令和6年九州総会の件
5. 青年部
6. 令和6年安全衛生推進大会の件
7. その他
8. 各支部の意見

○役員会

令和5年12月1日(金)15:30～

場 所：ザ・ナハテラス
出席者：篠森会長他16名

【議題】

1. 令和6年九州総会の件
2. 清水建設全国連合兼喜会第65
回定時総会(関東大会)の件
3. 西日本地区交流会の件
4. その他
5. 各支部の意見

○阿蘇神社参拝

日 時：11月10日(金)



○青年部幹事会

日 時：8月1日(火)16:00～
9月4日(月)12:00～
10月10日(火)12:00～

場 所：兼喜会事務所

○青年部支部長会議

日 時：10月12日(木)17:30～
場 所：東京都

○後継者育成研修

日 時：11月16日(木)～17日(金)
場 所：清水建設(株)本社ビル
出席者：折式田氏、横内氏、
緒方氏

○青年部秋の研修

日 時：10月13日(金)13:00～
場 所：清水匠義塾

○名古屋兼喜会青年部との 意見交換会

日 時：11月10日(金)10:30～
場 所：支店5階会議室



会員の動向

代表者名変更

- (株)ナラタ(研・解体) 2023.9.25変更
旧会員名：羽根 信夫→新会員名：榎田 かおり
- (株)田山大理石(石工) 2023.10.1変更
旧会員名：田山 利昭→新会員名：田山 智章

発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社
TEL 092-591-5110